

## 第 4 章 環 境 管 理

### 第 1 節 基 本 方 針

環境質及び自然環境質の環境管理に係る基本的な方針は、快適な県土環境を形成するために、将来にわたり保全すべき目標として設定された環境保全水準及び当該環境保全水準を維持するために許容される限度量として設定された環境容量に基づいて管理していくことが基本となる。この場合、現状の水準が良好な水準にある場合には、できるだけ現状水準もしくは現状に近い水準に維持していくことが原則となる。また同時に、現状の水準が環境保全水準や環境容量を超過し、もしくは超過する恐れのある状態にある場合には、これを是正し、もしくはその進行を抑止するための各般の対策を促進することが課題となる。

このため環境管理の手法としては、基本的には県土を一平方キロメートル単位に区分したメッシュにおける現況に配慮しながら適正に管理していくものである。

以上に述べた環境管理を実施していくに当たってはメッシュにおける環境の状況を常に明らかにしておくことが必要であり、このため環境の現況を、測定結果及び必要に応じて実施する諸調査結果などによって、そのローリングを行い、その結果を明らかにしていくものである。

### 第 2 節 管理手法の大綱

大気質に係る環境管理は、二酸化硫黄、二酸化窒素を対象に、それぞれについて定めた環境保全水準、環境容量が満足されるよう管理するものであり、開発行為などが行われる場合には必要に応じて大気拡散シミュレーションなどを行い、メッシュに係る環境濃度を把握することにより排出負荷量についての適切な指導を行うものである。

水質に係る環境管理は河川については各河川の環境基準点における環境保全水準、環境容量を満足するよう管理するものであるがこの場合、流域別下水道整備総合計画が策定されている河川については同計画において設定された「許容流出負荷量」に配慮して管理する。また、湖沼については、現状水質が多くの湖沼で環境保全水準を超えているので水理、水質汚濁機構の解明を早急に行うことによって今後とも厳正に管理する。また、海域については、各海域の A 類型水域の水質が、原則として環境保全水準内の現状水質で維持されるよう管理する。この場合、一部海域